

## 埼玉県と千葉県の水ゴズズメノヒエ

土屋 守

水ゴズズメノヒエの分布については中部以西の各地からの報告はあるが、関東地方からの記録はまだ無いようである。私は1986年に埼玉県越谷市大吉の廃田で、1989年に千葉県野田市の江戸川畔で採集している。

越谷市では水ゴズズメノヒエは廃田一面に密生しており、他の雑草はこれに圧倒されてほとんど生えていなかった。旺盛な生育ぶりを見て驚いたのを覚えている。採集当時は角野氏の報告：キシウズズメノヒエの二型について（植物分類・地理35：182, 1984）を忘れていて標本は名称未詳のままにしておいた。その後1989年7月、野田市の江戸川畔で越谷市で採集したものと同等のものを見つけた。越谷産の標本を出して比べてみたところ同じものであった。だが相変らず種名未詳としておいたが、ちょうど植物分類・地理40巻1～4号が届いた。その中に益村氏の「水ゴズズメノヒエの学名」と題する報文があり、精細な図も添えられていた。これにより越谷市と野田市のものが水ゴズズメノヒエであると判明した。

江戸川畔では野田市の対岸の埼玉県松伏町でも生育を確認した。松伏町産のものは前記2カ所のものと比べるとやや小型で、葉身に毛はほとんど見られない。野田市産の標本は東京都立大学と信州大学に納めておく。

## ヒシハムシの

## ヒツジグサに対する忌避について

橋本 卓三

次の様な観察事例があるので報告しておく。

1986年9月28日、東広島市西条町吉行の下池での事。水深の浅いこの池には当時ヒシとジュンサイの密な群落が生い茂っており、池底には一面にホッソモが生育していた。ヒシの大半はヒシハムシの食害で枯れており、至る所の水草類に長さ5mm位の褐色のサナギが付着していた。

昆虫についてよく知らず、他のハムシの存否は不明だが、大量発生に伴ってジュンサイもかなり手ひどく食害されて穴だらけとなっていた。岸边の一部にあったヒルムシロも少し食われていた。この中で所々に散在するヒツジグサのみにはヒシハムシの食い跡が全く見られず、

ボロボロになった水草群落の中で鮮やかな緑葉を浮べていた。この光景が不思議であり、食草では無いにしても全く被害を受けないのは何かこの虫に対して毒素の様なものでもあるのだろうかと思ったりしたものである。

水草研究会報37号でスイレンにタンニンや蔞酸が多いと言う記述を読ませて頂いたが、ヒシハムシのヒツジグサに対する忌避もこの事によるのだろうか。それとも別に或る特定の成分が作用しているのであろうか。

## 三重県多度町のトウビシ危うし

中井 三従美

トウビシ（唐菱）*Trapa bispinosa* Roxb. は中国大陸、インドに分布。本州中部東海地方で戦前より食用にするため栽培されたことがあった。現在は筑後、佐賀地方で栽培されて、ヒシご飯、野菜サラダなどにダイエット食品として需要量も殖えている。

1989年10月5日、本会々員河合良典氏の案内で、三重県多度町福永地区を訪ねた。この地区は上ノ郷、古敷などの6つの集落からなる輪中地帯で、以前にも足を運んだことは何度かあった。この輪中には、甚六池、西田池などのため池と水田の端に小さな水路が無数に通ち、数多くの水生植物がみられる。福永地区北端に近い水路に、トウビシが多くみられ、その極一部分にトウビシが残存している。前に調査した池No.45甚六池、池No.89西田池ではトウビシの漂着果実を採集しているが、冬期から春期に訪れていた為、今回初めてトウビシの濃緑色の葉、白色の花、紅紫色の果実（生）を目にした。かつてのトウビシ漂着果実の採集池の現状を報告すると、No.45甚六池は東側3分の1ほどが土砂や瓦で埋められて、ヒシ属はわずかに中形四刺、二刺のみみられるだけで、トウビシは確認できなかった。No.89西田池は浮葉の一枚もなく、高圧線をささえる鉄塔が池面にはっきり映しだされていた。この地区からトウビシが消えるには最早それほど時間はかからないだろう。

【追記】同日、福永地区琵琶ヶ池とその北側水路、上の郷地区の水路にアサザの群落をみた。花期に又訪れてみたい。

## 参考文献

- 大滝末男 1987. トウビシ流行のきざし. 水草研究会報 30:13.  
 浜島繁隆 1981. ため池の水草調査3. 植物と自然

15 (13):27~30.

愛知県渥美半島

芦ヶ池にヒメビシ

中井 三従美

ヒメビシは全国各地の池沼やため池の浅水中に群生する浮葉性の一年草。分布的にはヒシやオニビシより極めて少ない。これまで、岐阜県南濃町No.39坊主池、笠松町No.44トンボ池、羽島市No.90木曾川右岸の沼、愛知県刈谷市No.50大池でヒメビシ漂着果実を採集した。その後、愛知県渥美町でオニバスの研究をされている伊藤三世氏の情報提供で、1989年8月5日、池No.52芦ヶ池を再び調査した。池の北側はハス群落(赤花)、南側はヒシ群落で池面が殆んど覆われていた。池を1周してヒシ属の漂着果実を調べ、北側一帯のハス群落で四刺性小形の漂着果実を7個拾った。果実の大きさ、なめらかさ、形状から明らかにヒメビシであった。この芦ヶ池のヒメビシは、背腹刺針の逆小刺針は認められない。

○文献リスト<1989- (3)>

- 青山 勲. ホテイアオイを用いた水質浄化能と実用化への今後の課題. ホテイアオイ研Newsletter (15): 6-9.
- 荒巻 稔・土谷岳介・岩城英夫. 霞ヶ浦高浜入におけるコウホネの沈水葉の光合成特性. 日生態会誌 39: 189-193.
- 伊藤一幸. 水田雑草オモダカの生態と防除に関する研究. 雑草研究 34: 101-106.
- . 宮原益次. 水田多年生雑草オモダカ繁殖体の生存状態と出芽に関する生態学的研究 第4報 水田における塊茎の休眠覚醒時期. 同上 34: 154-162.
- . 同 第5報 塊茎からの発消消長と出芽に及ぼす要因. 同上 34: 299-307.
- 今西 競・沖 陽子・中川恭二郎. 沈水雑草クロモの繁殖器官の萌芽に関する予報. 農学研究 62: 49-61.
- 沖 陽子. 海外におけるホテイアオイの評価. ホテイアオイ研Newsletter (15): 13-15.
- . 今西 競・中川恭二郎. 沈水雑草オオカナダ

- モ、クロモ、コカナダモの生育環境及び外部形態の変異性に関する研究. 農学研究 62:31-48.
- 加藤藤重. 草加市のキタミソウの分布状況. 野草 55: 131-133.
- 喜納政修・屋良朝徳・照屋 洋・渡久地聡・永井一寛. 沖縄におけるホテイアオイによる窒素除去. 琉球大学工学部紀要 (37):23-29.
- 国井秀伸. 島根県平田市のため池の水質と水生植物の現況について. 島根野生研会報 No. 6:9-11.
- 米虫節夫・藤田藤樹夫・横山裕彰・山縣 敬. 淡水産植物コカナダモの微生物分解. 近畿大農学部紀要 22: 39-45.
- 芝山秀次郎. 最近における水田雑草防除の諸問題. 農業技術 44: 312-315.
- 千葉和夫・近内誠登. 多年生水田雑草コウキヤガラの防除法確立に関する基礎的研究 第4報 薬剤による防除について. 雑草研究 34: 146-153.
- 富久保男. 岡山県におけるホテイアオイの生態と防除に関する研究. 同上 34: 94-100.
- 外山雅寛. 北海道における植物分布の新知見(Ⅱ). 北方山草(8):42-55. [ヒンジモ、ナガレヒメタヌキモ、他の記録がある]
- . 北海道の食虫植物. 同上 (8):99-126.
- 猶原 順・石井 猛. ホテイアオイ中のペクチン含量. 日本食品工業学会誌 36: 583-586
- 中井三従美. 愛知県常滑市におけるため池の現況. ため池の自然(10):13-14.
- 根本清一・小倉 力. 湿生植物による小規模ため池の堤体漏水診断法. 農業技術 44:200-203.
- 野口信行. 岡山県におけるホテイアオイによる水質浄化について —行政の立場から—. ホテイアオイ研 Newsletter (15):2-4.
- 橋本卓三. 東広島市内ため池のガガブタ. 最近の変化. ため池の自然(10):15-16
- 浜島繁隆. 名古屋周辺のため池にみられる水草相の変貌(4) 濁池(豊明市)の水草相22年間の変化. ため池の自然(10):7-9.
- S.C.H.バレット(沖陽子訳). 猛威をふるうホテイアオイ. サイエンス 19(12):100-109.
- 藤目信行. 旧吉野川流域のホテイアオイ防除と対策について. ホテイアオイ研 Newsletter (15):4-6.
- 船越真樹. 木崎湖におけるコカナダモの衰退. 長野県植